

これはイエスの生涯について記した最古の書物の一つであり、伝統的にはマルコまたはヨハネ・マルコというクリスチャンの書記が書いたものと言われています。彼はパウロの同労者であり、ペテロの親しい相棒でした古代教会の歴史家パピアスは、マルコはペテロが目撃したことや記憶していることを書き留め、ペテロの記憶を見つけたことを書き留め、それをまとめたのがこの書だと言っています。ただしマルコは断片的な話を無作為に繋げたのではなく、よく練った構成でイエスの物語を伝えています。この書の最初の行でマルコはイエスについてこう宣言しています。神の子メシアなるイエスの良い知らせの始め興味深いのは、マルコが自分の考えについて述べているのはここだけということです。ここから先は、彼はただイエスの言動とそれに対する人々の反応を記し、それによって読者にメッセージを伝えようとしています。マルコの福音書におけるイエスの物語は3部構成になっています。最初のセクションの舞台はガリラヤ。3つ目のセクションはエルサレム。そして2つ目のセクションはガリラヤからエルサレムに向かう途上の話です。

そしてそのどれもが繰り返し同じテーマに焦点を当てています。最初のセクションでは、イエスに圧倒された人々が彼は一体何者なのかと不思議に思います。二つ目のセクションでは、弟子たちがイエスがメシアとはどういう意味なのかという疑問を抱えています。そして最後のセクションには、イエスがどのようにしてメシアなる王になるかについて驚くべき逆説が記されています。

それでは詳しく見ていきましょう。冒頭の一行の後マルコはイザヤとマラキの予言を引用しています。彼らは神がご自分の民を救い、王となるために来られる時、民に準備をさせるためご自身の使いを送ると言っています。そしてマルコはその使いとしてバプテスマのヨハネを紹介し、次に今こそ神が登場すべき真打ちというところで、イエスを登場させています。そしてイエスが現れると天が開き、神の霊がイエスに下り神がこう言うのです。「あなたは私の愛する子。」マルコはこの後イエスの中心的なメッセージの要点を記しています。イエスはガリラヤに行き、神の国が近づいたという良い知らせを告げました。世界を救う神の計画について、旧約聖書から続くストーリーを進めていったのです。神はイエスを通して人々の人生を支配する悪と対決して打ちまかし、ご自身の世界の統治を回復させます。そしてイエスに従うことによって、神の統治のもとに生きるよう呼びかけるのです。ここからは神の国をもたらすイエスの力を示すストーリーが記されている大きなセクションで、イエスは病氣や障害に苦しむ人々や、暗闇の霊の力に強いたげられる人々を癒します。

さらにイエスは罪を赦す宣言をしましたが、ユダヤ人はそれをする権利があるのは神だけだと考えていました。イエスがしたこれらのことに対する人々の反応は様々でした。ある人々はイエスに従う弟子となり、ある人々はどう受け止めていいのかわからず、ある人々、特にイスラエルの指導者たちは完全に拒絶し、神を冒瀆する悪霊に疲れた人だとイエスを非難しました。しかしイエスはそんな反応に驚くこともなく、逆にそれをきっかけに語り始めました。4章には神の国の隠された奥義についてのたとえ話が集められています。イエスのご自身の話すことを4つの違った環境の土にまかれた種にたとえました。良い環境もあれば悪い環境もありました。また小さなカラン種のようにも言いました。取るに足りないもののようなのですが、育つと人を驚かせるくらい大きくなるのです。イエスが言いたかったのは、ご自分こそ神の国をもたらすメシアだが、人が期待した通りの存在ではない、ということです。次第に大きくなっていくイエスに対する人々の誤解は、マルコが強調した重要な事実すなわち、イエスの弟子たちでさえ、イエスとは本当はどういう方なのかをつかみ切れずに葛藤した、ということを表しています。これは二つ目のセクションでも続きます。イエスは弟子たちをそばに呼び、こう尋ねます。あなた方は私を誰だと思うか？ペテロは、あなたはメシヤです、と答えました。ところがペテロは、イエスのことをダビデの家系から出た軍事的な王でありローマからイスラエルを救う人だと考えていたことがわかります。しかしイエスが言うメシヤは、イザヤ書53章に出てくる苦難のしもべであり、エルサレムで自分の命を捧げることによって神の支配をもたらす存在なのです。それを全く理解していなかった弟子たちは、王なるイエスに従っていけば名声と重要な地位を得られるだろうと思っていました。しかしイエスに従うことにはある意味で死ぬようなこと、自分の十字架を覆うことになることとイエスは明言しました。これは暴力、プライド、自己中心性を否定し、他者に使え、愛するために自分を捧げるという意味です。イエスはこれと同じことをあと2回弟子たちに話します。そしてそれはイエスのこの重要な言葉に要約されます。「人の子は使えられるためではなく、仕え、多くの

人々に命を与えるために来た。」弟子たちはそれでもわからず、戸惑い、恐れていました。マルコはここに本書の最初の部分と交往するような大事なエピソードを挿入します。イエスが3人の弟子を連れて山に登ると突然その姿が変わり、光と栄光に包まれ、雲が彼らを覆ったのです。それはまるで昔、イスラエルの神の栄光がシナイ山に現れた時のようでした。それからシナイ山で神の御前に立ったことのある二人の預言者モーセとエリアが現れ、イエスの横に立っていました。その時神が再びこう告げたのです。「これは私の愛する子。」二つ目のセクションのイエスの言葉の間にこのシーンを挟むことによって、マルコはイエスについて驚くべき宣言をしているのです。イエスは神の子であり、神の栄光を肉体をもって体現している方だと。このイエスを通してイスラエルの栄光の神は、人々の罪のために死ぬことによって王になろうとしています。この謎めいた宣言に、弟子たちは困惑と恐れを感じながら山を下りました。3つ目のセクションではイエスが観衆に迎えられ、王のように過越の祭り直前のエルサレムに入ります。人々はイエスをメシアとして歓迎し、神殿の中庭に入ったイエスは、犠牲の動物を売る人を盗人と呼んで追い出し、自らの王としての権威を示しました。これを皮切りに、イエスは祭りの期間ずっとイスラエルの指導者たちと対決し、彼らの偽善を批判したため、彼らはイエスを殺す計画を立て始めたのです。イエスは弟子たちに、エルサレムとその神殿は間もなく破壊され、弟子たちも

イエスが世界中に彼の王国を確立するために再び来られる日まで、彼と同じように迫害されるだろうと予告しました。そしていよいよクライマックスを迎えます。イエスは弟子たちと最後の過越しの食事をします。これはイスラエルが子羊の死を通して奴隷から解放されたことを記念する食事のことです。イエスはこの象徴的な食事に新しい意味を加えました。苦難のしもべであるメシアの死を通して、人々が罪と死から解放されるという意味です。この後物語はイエスの逮捕、イスラエルの祭司とローマ総督のピラトの前での裁判、イエスの十字架へと突き進んでいきます。そして一つ目と二つ目のセクションの重要なシーンにこうする大切なシーンを迎えますが、今回は雲ではなく暗闇が辺りを包み込みました。そして天から声がする代わりにイエスが死を前にして叫んだのです。そして驚くべきことに、他ならぬローマの兵士がイエスの死を目撃してこう宣言したのです。「この人は神の子だった。」イエスが誰であるかについてのこの書の衝撃的な宣言を最初に認識したのはこの兵士でした。十字架につけられた神の子こそがメシア、ナザレのイエス。彼は友のために、そして敵のために命を捨てたのでした。この後、イエスの遺体は墓に埋葬され週があけると

二人の女の弟子が墓を訪れました。そして中が空になっていることに気づいたのです。入口の石はどかさされていて御使いが彼女たちにイエスは死からよみがえられたと告げました。そしてイエスは生きていて、ガリラヤで弟子たちに会うという良い知らせを他の弟子たちに伝えるようにと命じたのです。彼女たちは震え上がり恐ろしさのあまり墓から逃げ、怖くて誰にもこのことを言わなかった。これがこの書のエンディングです。一つ目と二つ目のセクションと同様、弟子たちの恐れと困惑をもって締めくくられているのです。聖書を見るとマルコの福音書のエンディングにはイエスが現れ、弟子たちに話しかける記事が付け足されていることに気づくでしょう。しかしそれには注釈がついていて、これは後に発見された信頼性の低い写本だと書いてあります。元々の原稿のエンディング部分が紛失したか、マルコが最後まで書き終えられなかった可能性もありますが、この唐突な終わり方は伝えたいことを明確にするために、わざとそうしたと考えるのが自然です。この書は最初から最後まで、弟子たちを困惑させたイエスの衝撃的な宣言、つまり苦しみを受け十字架にかけられ蘇るイエスこそメシアであり神の子であること、また神の愛と神の逆転の王国は、イエスが世界の罪のために死んだことを通して表される。この書は結末を省き、読者にイエスについてのショッキングな記述に真剣に取り組ませ、深く感慨させようとしているのです。あなたはこの弟子たちのように逃げるでしょうか?それとも、イエスを自分の王と認め、人々に良い知らせを伝えるでしょうか?それを決められるのはあなただけです。これがマルコの福音書です

【要約】

マルコの福音書は、古代のクリスチヤンの書記であるマルコ(またはヨハネ・マルコ)によって書かれたと言われ、イエス・キリストの生涯に関する最古の書物の一つです。マルコは、ペテロの記憶をもとにイエスの生涯をまとめたとされています。この福音書は、三つのセクションから成り立っており、イエスの神性とメッセージを強調しています。

最初のセクションでは、マルコはイエスが神の子であることを宣言し、イエスが神の国をもたらすことを伝えます。イエスは病気や悪霊を癒し、罪を赦す宣言をしましたが、人々の反応はさまざまでした。弟子たちもイエスの本当のメッセージを理解するのに苦労しました。

二つ目のセクションでは、イエスの弟子たちはイエスがメシアであることを確認しましたが、彼らはイエスのメシア像に誤解がありました。イエスは自己犠牲と仕える王であることを示し、弟子たちは戸惑いました。

最後のセクションでは、イエスはエルサレムに入り、王として迎えられました。しかし、彼は神殿での出来事や指導者たちとの対立からイエスが十字架にかけられる運命に向かうことが示されます。イエスは死からよみがえり、福音を広めるよう弟子たちに命じました。

この福音書はイエスの神性とメッセージを強調し、読者にイエスを受け入れるかどうかの決断を迫る内容となっています。